

| | | | |
|------------------|---|------|--------------------|
| 講座名（専門科目名） | 臨床免疫病態学 | 教授氏名 | 高松 漂太 |
| 学生への指導方針 | リサーチクエストの解決過程を通じて、臨床医学を深く洞察できる能力を育みます | | |
| 学生に対する要望 | クリニカルクエストやリサーチクエストを持ち、自らそれを解決したいと望む学生。議論を楽しむマインドを有し、自ら実験、データ収集、解析を行う学生を歓迎します | | |
| 問合せ先 | (Tel) 0721-53-5761（代表） (Email) thyota@imed3.med.osaka-u.ac.jp takamatsu.hyota.mr@mail.hosp.go.jp ueo.yuko.lr@mail.hosp.go.jp （秘書） | 担当者 | 高松 漂太 上尾 結子（秘書） |
| その他出願にあたっての注意事項等 | 研究場所は、河内長野市の大阪南医療センター臨床研究部になります。 参照： https://takamatsu-lab.com/ | | |

大阪南医療センターは大阪府南部の河内長野市にあり、臨床研究部と免疫疾患センターが併設されています。免疫疾患センターでは、免疫内科を中心に整形外科、呼吸器アレルギー内科、皮膚科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科等が協力しあって診療や臨床研究を行っています。臨床研究部には、動物実験施設（SPF）、免疫生化学実験室、細胞培養室を備え、共焦点顕微鏡やFACSなどの実験機器があります。なかでも免疫異常疾患研究室では、関節リウマチや膠原病のアンメットニーズに関する研究やMTX関連リンパ増殖性疾患などに関する研究を行っており、大阪大学医学系研究科の連携大学院臨床免疫病態学研究室として大学院生を募集しています。

研究室主催者は、これまでに膠原病の病態解明研究や新規治療薬の探索研究 (*Arthritis & Rheum.* 2025; *BMC Rheum.* 2024; *EMBO J.* 2023; *Rheumatology (Oxford).* 2023; *Ann Rheum Dis.* 2018) に取り組み、また、免疫細胞の移動メカニズムの解明と細胞移動を標的とした治療薬の開発研究 (*Life Sci. Alli.* 2025; *EMBO J.* 2023, *Nat Commun.* 2021; *Nat Immunol.* 2010) を行ってきました。また、大阪大学工学部との産学連携研究として、1細胞機能評価用デバイスの開発にも (*Theranostics* 2020; *Sci Rep.* 2021) 取り組んできました。

現在は、① 膠原病の病態解明と新規治療法開発に関する研究、② がん合併膠原病患者に対する治療に関する研究、③ 関節リウマチのアンメットニーズ解決に向けた研究、に取り組んでいます。また、地域特性から超高齢患者も多く、④ 超高齢者の抱える医学的、社会的課題の解決を目指した研究も開始しています。

① 膠原病の病態解明と新規治療法開発に関する研究

- 膠原病合併間質性肺炎（CTD-ILD）のバイオマーカーの探索と病態解明
- 膠原病合併肺動脈高血圧症（CTD-PAH）のバイオマーカー探索と病態解明
- SLEにおける自己抗体の病原性に関する研究
- 自己抗体に基づく炎症性筋疾患（IIM）の層別化と病態解明

② がん合併膠原病患者に対する安全な治療法確立に向けた研究

- 癌合併RA患者における生物製剤の安全性と有効性に関する研究
- 免疫疾患患者に対するICI治療とirAEに関する研究と安全なICI治療法の確立

③ 関節リウマチのアンメットニーズ解決に向けた研究

- 治療難治関節リウマチ（D2TRA）の治療抵抗性バイオマーカーの探索
- RA-ILDにおけるJAK阻害剤の有効性と安全性に関する研究
- 診療補助アプリ「MiRAi」を用いた多施設共同縦断的RWDの収集と解析研究

④ Dxを用いた患者のQOL、ADL改善に向けた研究

- リング型デバイスを用いたバイタルモニタリングによる慢性呼吸器疾患患者のADL改善研究
- ポリファーマシーの改善に資するDxによる地域医薬連携に関する研究

大学院生期間中も臨床キャリアを高めながら研究にも楽しく取り組むスタイルで、患者や社会のニーズに応え、臨床に根ざした研究の推進を目指しています。また、2026年4月から大学院生が在籍します。研究がより活発になるものと期待しています。